

講義名	現代ビジネス			授業形態	
担当教員	上田 義朗	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
世界また日本における現在進行中のビジネスまたマーケティングの実態や課題について具体的に学びます。 そのために具体的な事例として新聞や雑誌の記事を配布します。 その具体的な記事を検討するための分析視角また理論的な見地として、教科書のマーケティング理論を順に輪読します。 マーケティング理論を学び、同時に具体的な事例を考える。これらを通してビジネス感覚を養成します。 なお、本講義は予習をしっかりと、対面講義では対話や議論（＝意見交換）をしっかりと。事前に教科書を読んでおくことが不可欠ですが、それがどこまで可能か。頑張ってみようと思います。

到達目標
1．世界や日本のビジネス・マーケティング記事の内容を理解し、それについて何らかの論評ができるようになります。 2．教科書を通してマーケティング理論を広く浅く学ぶことができます。 3．企業経営やマーケティングの課題・問題点の抽出とその解決策を検討できるようになります。

提出課題
レポートを何度か提出してもらいます。 レポートにはレスポンを含みます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
講義中にレスポンスやレポートについて紹介・解説・議論します。 レポート内容の口頭発表や、その議論に参加した学生に得点を与えます。

評価の基準
レポート・発言・レスポンを総合的に評価します。期末の定期試験は実施しません。ここで言う「総合的」とは、最高点が99点になり、最低限の課題を達成している受講生が60点になるように配点します。 当面は次のような評価の加重です。 発言：20％、レポート：40％、レスポンス：40％ 積極的な講義参加を評価の重点とします。したがって評価では講義中の発言が重視されます。出席は取りません。積極的な講義に対する参加を評価します。 なお、講義中に発言できない学生は、メールで意見を述べてもらうことで発言と同等とみなします。

履修にあたっての注意・助言他
今期に使用する永井孝尚の教科書は「MBAマーケティング50冊」です。「MBA50冊」ではありませんので注意して下さい。 対面講義では、間違っても良いので積極的に発言して下さい。それが評価の点数になります。 そのためには教科書を予習として講義前に読みましょう。 企業の事例や業界分析や時事問題を取り上げる場合、ビジネス雑誌では『日経ビジネス』を活用します。 教科書を1冊全部を読むことを予定しています。そのつもりで受講して下さい。

教科書				
・世界のエリートが学んでいるMBAマーケティング必読書50冊を1冊にまとめた。	永井孝尚	KADOKAWA	1780	078-4-04-
参考図書				
・世界標準の経営理論。	入山章栄	ダイヤモンド社	2900	9784478109571

その他
主要新聞を始め『日経ビジネス』等の記事を配布します。そのほか関連資料を配付します。

授業計画
教科書の順番に講義をします。それを基本的に時事問題を応用として考えます。教科書の順番を重視するか、その時々最新のニュースを重視するか。それによって講義の内容が変化します。とりえず、柔軟に対応するというこで、以下のように簡単に講義概要を示します。 教科書の概要【 】は50冊の著書の番号です。 第1章 「明略」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [1] ～ [13] 第2章 「ブランド」と「価格」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [14] ～ [19] 第3章 「ヤービス・マーケティング」・・・・・・・・・・・・・・ [20] ～ [27] 第4章 「マーケティング・コミュニケーション」・・・・・・・・ [27] ～ [33] 第5章 「チャネル」と「販売」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [34] ～ [44] 第6章 「市場」と「顧客」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ [45] ～ [50] 具体的な講義は随機応変に柔軟です。対話型なので議論が発展すれば、あまり教科書は前に進みません。その場合、教科書を読んで問題を考えることが復習・宿題になります。 1．教科書の内容説明と具体事例と議論： [1] ～ [3]・・・講義の概要 2．同上： [4] ～ [5] 3．同上： [7] ～ [10] 4．同上： [11] ～ [13] 5．同上： [14] ～ [16] 6．同上： [17] ～ [19] 7．同上： [20] ～ [22] 8．同上： [23] ～ [25] 9．同上： [27] ～ [29] 10．同上： [30] ～ [32] 11．同上： [33] ～ [35] 12．同上： [37] ～ [40] 13．同上： [41] ～ [44] 14．同上： [45] ～ [48] 15．同上： [48] ～ [50]・・・講義全体の総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習：教科書や資料を事前に読む。120分～ 事前に教科書や資料を読んでもらいます。その予習内容を対面講義で発表。また質問に対する回答。これらに得点を与えます。 復習：講義中に前回の講義内容について口頭で確認の質問をします。教科書にアンダーラインを引いたり、書き込みをしたりする。もちろんノートを作成もよい。その時に考えたコメントやビジネスアイデアを書くことも勧めます。120分～

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
卒業認定・学位授与の方針に基づく人材として、特に「(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成に貢献する。 上記の人材育成には、理論と具体的事例の双方の連結を考える日々の訓練が必要となる。本講義は、その体験の場所となることが理想であり、目標である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
すでに説明しているように、受講生にとっては教科書の予習が要求される。その努力を講義中の発言やレスポンスやメールで発信・発散してほしい。そういう講義です。 受講生は講義中にSNSを使用して、専門用語や具体的な事例またYouTubeを閲覧して、それについて発表してもらいます。これについて得点を与えます。

実務経験の有無及び活用
実務経験あり 1．株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了） 2．海外進出・国際貿易のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長） 3．経産省後の民間のビジネスマッチング（現職：スバルH R D I C社顧問、合同会社I E T） 4．映画『ベトナムの嵐に吹かれて』（主演：松坂慶子、監督：大島一樹）製作（製作委員会・エグゼクティブ・プロデューサー） 5．京都商工会議所・国際ビジネス相談員 ・・・研究上の論理的な整合性（＝理論）と、実務上の非論理的・情緒的な現実（＝実践）の「乖離」と「統合」について、私の具体的な経験と知見は、受講生の指導に活用できます。

備考
質問は講義の最中や前後に下さい。またメールを歓迎します。 Yoshiaki_Ueda@red.unds.ac.jp